

昼間定時制教育目標	重点目標(中長期的目標)	総合評価		
多段階への移行に関わる検討を重ねるとともに、単位制の趣旨と昼間定時制の特色を生かし、生徒・保護者のニーズに応える教育を行う。	単位制の一層の推進、充実を図るとともに、生徒が基礎学力・基本的な生活習慣を身につけ、活力ある学校生活を送ることができるようにする。	本校生徒のニーズに応じて、単位制の特色を生かし、現有職員数としてはできる限りの選択科目の設定や少人数授業の展開が実施できた。また定時制という限られた時間内で多彩な特別活動や行事などが企画され、学び直しを求める生徒へ有益な支援ができた。		
	今年度の重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策
	1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実	生徒会が中心となり「生徒・教職員・保護者の会」を設立し、生徒が校則や校内の諸問題について主体的に考え解決していく道筋ができた。こうした活動や行事などの充実に伴い、生徒に活気が生まれると共に、校内は落ち着きを増した。また昼定ハンドブックなどの活用による入学時からの進路指導が徐々に浸透し、卒業後の進路もかなり成果があがった。	A	かつて不登校を経験するなど、学び直しを望む生徒の基礎学力の向上のためには、一層の少人数授業の展開が必要である。特に三部制転換に伴い、新カリキュラムが併存する移行期に、職員数の増加は不可欠である。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策	
教育活動	教育課程	開講科目の充実	生徒の希望を生かす講座の開講および講座編成ができたか。	新年度からの三部制転換に伴い、大幅な改定を行なった。しかし在校生徒の入学時教育課程も併存しているため、それとの整合性を取り、学習も保障できるような配慮について、今後も研究が必要である。	B	単位制にふさわしい開講科目を用意するとともに、在校生徒の単位修得に不利益のないようにするためには、充実した開講数を確保すべきであり、職員数の増加が不可欠である。	
	学習指導	基礎基本の定着	習熟度別授業を活用できたか。 生徒による授業評価を行い、活用できたか。	習熟度別授業は一定の成果を上げているが、充実のためには、各教科との一層の連携が必要である。 授業評価を各教科の学習指導に生かすことはほぼ定着したが、今後さらに、分かり易く魅力ある授業を目指し、職員全体での研修にまで広げる努力が必要である。	B	「学び直し」の生徒の希望に添うためにも、さらなる職員数の充実が不可欠である。 授業評価を継続しつつ、授業法の研修とも連携させる工夫が求められる。	
	生徒指導	不登校生などへの対応	スクールカウンセラーなどと連携できたか。 保護者との連携は強化できたか。	毎月一回、生徒情報交換会およびカウンセリング研修会が職員の大半の参加の下で実施でき、職員相互の連携が強化された。そのため生徒の諸行動に対しても迅速な指導がなされた。相談室担当者を中心に発足した「親の会」により、保護者との関係も強化され家庭との連携も深まった。	A	本校のような単位制高校においては、全職員が全生徒の情報を共有して支援していく必要がある。そのためには定例化しつつある情報交換会などを一層充実させ、職員相互の連携および個々の指導力の向上を図ることが不可欠である。	
	活動	暴力やいじめの防止	生徒・保護者との信頼関係は構築できたか。 職員相互に密な連絡がとれたか。 生徒・生徒・保護者との信頼関係は構築できたか。 職員相互に密な連絡がとれたか。 生徒・職員の人権感覚は向上したか。職員の人権感覚は向上したか。				
		交通安全指導	街頭指導などを実施したか。	喫煙や人権問題について有意義な講演会や視聴覚教材による学習が実施できた。生徒会と協力して、「生徒・教職員・保護者の会」(三者協議会)を発足させることができ、生徒が主体的に校則や諸問題に取り組む基点となりつつある。交通安全や単位制実施に伴う空き時間の過ごし方などの課題について、前述の会で生徒と本音の意見交換ができ、方向性が出てきた。生徒と職員が討論して問題解決に向かう方法を確立したことは本年度の特筆すべき成果である。	B	問題行動に対しては引き続き粘り強く、対話と説得をもって指導に当たり、家庭との連携にも努める。また担任相互の連携強化(各年次会など)も必要である。校内の諸問題については生徒会との連携を強め、左記の三者協議会などを通じて生徒の主体的な行動を喚起することが解決への近道だと考える。交通安全指導については免許保持者への特別講習などを準備していきたい。	
		喫煙や薬物防止	校内外の巡回および啓蒙活動はできたか。				
	進路指導	きまりに対する意識の向上	生徒参加による校則の整備は進められたか。 きまりに対する理解が進み、ルールを守る意識が向上したか。				
		進路学習の充実	進路講話、年次別進路ガイダンスが実施できたか。 ホームルーム等において「昼定ハンドブック」の活用ができたか。	卒業年次生には、個人面接、各種情報説明会、情報誌、情報端末の利用など、生徒ひとりひとりに行き届いた進路指導ができたが、今後は年次別やクラス別の進路指導を工夫していく必要がある。 『昼定ハンドブック』を1年次から使用した初の卒業生であったが、進路未決定者がほとんどなく、その効果があったと言える。	A	年次別のガイダンスやHRでの指導が今後の課題である。『定時制ハンドブック』を活用し、情報を与え、個人懇談等により、個別の指導も重視していきたい。	
		進路選択意識の向上	職業適性検査、進路適性検査、一般常識テストを実施できたか。 就職説明会、会社訪問、学校説明会参加等による進路先研究の指導ができたか。				
	生徒会活動	進路実現のための基礎学力の定着	夏季・冬季補習が実施できたか。 長期休業中の課題指導ができたか。				
くれき野祭の充実		それぞれの役割分担の中で、多くの生徒が主体的に取り組めたか。	スタッフと運動部による各催事、文化部と芸術授業の展示発表、クラスと年次による装飾など、新たな企画で主体的に取り組む生徒が増えた。さらに新たな企画を広く提案し、生徒が活躍する場面を増やしたい。	A	生徒が能力を発揮しやすいように、職員も企画段階から積極的に関わる。		
学校運営	委員会活動の充実	各行事や活動計画に向けて、積極的に取り組めたか。	体育祭の運営、昇降口の花の育成、ゴミ箱清掃、生徒会誌編集発行、新聞作り、保健便りの定期発行、選挙運営など、委員長を中心に取り組めた。日々の活動につなげるための具体策が必要。	B	生徒の自治意識がより高まるように、活動目的の明確化、活動内容の精選などの各委員会での工夫。くれき野祭などの行事に向けた活動計画を盛り込む。2月の生徒会企画に向けた取り組みを通して、活性化を狙ってみる。		
	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。	公開授業を2回実施した。学校説明会は三部制への転換の説明会を含めて2回行ったが、8月は66名、11月は170名(いずれも中学職員・保護者を含む)の参加があった。	A	学校評議員会や三者協議会の開催に合わせて計画するなど、時機や方法をさらに工夫したい。	
	組織の運営	単位制の一層の充実	「内規集」および「昼定ハンドブック」を整備し、活用できたか。	『定時制ハンドブック』を新編した。その中で進路と関連づけ、卒業後への展望を持った科目選択による履修計画の立案を呼びかけた。	A	単位制の利点を生かした、より自由な科目選択をさせる一方、安易な選択に流されず、進路面で支障のないような指導が必要である。	
	組織の充実	校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。 意見を総括する中で、協力的体制を確立できたか。				
研修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。 上記生徒への適切な対応をおこなうための研修ができたか。	ほぼ毎月の研修会が多くの職員参加のもとで実施でき、それぞれの指導に反映できた。	B	多様な生徒への理解と対応が一層円滑に進むように、充実した研修を継続していく。		
	授業法の研修	校内授業公開を実施したか。	校内公開授業を実施して、昨年度より多くの参観ができた。		授業評価の課題とも関連させながら、職員相互の研修に生かせるよう、さらに多くの機会を設けたい。		